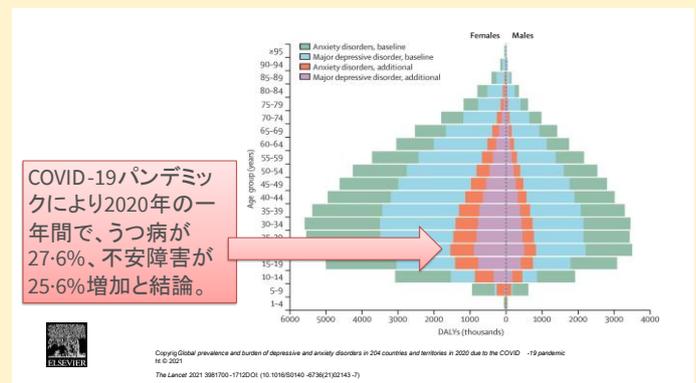




(2024年 04月 07日撮影)

「尾張名古屋は城で持つ」と云われ出したのはいつ頃でしょうか？ 久しぶりに金鯱が乗っている名古屋城天守閣をバックに、満開の桜を写真に撮りました。名城公園、凄い人出で歩くのも人混みでつかえる程でした。このクリニックを開設したのが2015年5月ですから、開院して丸9年を迎えようとしています。年に1回程度、ブログを書いてきたのですが、2020年の春以来、丸四年間、ブログが止まりました。その理由は幾つかあります。まだ終息していない新型コロナウイルスのパンデミック。80億人の人類の7億人が罹患し700万人が死亡し、平均寿命が1.6歳短くなったという未曾有の事態が一番大きいでしょうか。パンデミックにより不安



障害やうつ病が25%余り増えたと報告されています。

加えて、2022年2月に始まった露西亜のウクライナ侵略戦争、2023年10月に始まったイスラエルのガザ地区での攻撃、イランへの侵攻など、世界各地で戦火が拡大していることもあります。そして今年の元旦の夕方に発生した能登半島地震も衝撃でした。能登半島地震では、労働基準法第33条に基づいて自治体職員の方も支

援に行かれているのは頭が下がります。コロナ禍でも医療や福祉というエッセンシャルワークは、中断することが出来ません。

新型コロナウイルスの感染恐怖も抱きながら診療を続けてきています。マスク、ビニールシート、アルコール消毒が続いています。昨年5月で2類から5類に位置づけられましたが、ビニールシートはまだ外していません。電車やバスなど人混みを避けることも重要なので、パンデミックで受診患者さんの足も遠のいています。上記のような不安要因、マイナス要因ばかりが見られる中で2024年春の診療報酬改悪が行われました。通院精神療法点数が引き下げられました。マイナ保険証の強制による政府の国民管理施策への不信や反発も患者さんの不安を増大させています。

という訳で、人類（人間界）も日本社会も大変な状況です。憲法第九条の平和主義のお陰で、この国も戦火に巻き込まれてはいませんが、台湾や朝鮮半島でも、米中、米北朝鮮、米口の対立の構図の中で、軍事同盟を強化する方向にある日本です。国内の政治の低迷と墮落を招いておきながら、米国大統領に指南に出かけるようでは、未来は明るくなくさそうです。

さて春は転勤、入学、卒業、就職、定年退職の季節でもあります。専門学校や大学に進学した学生、社会人となった若者は、何故か元気がありません。雇用破壊のせいで正規雇用の枠は益々狭まり未来が暗いからです。1985年に成立した労働者派遣法は、喪われた三十年の大元でもあります。その背景には1973年以降の経済不況があるのです。そうした社会（人間界）とは異なって自然界では、長く寒い冬がようやく終わり、一挙に桜の花が満開となりました。

名城公園では、風車前のチューリップ畑を撮りました。公園内では花を愛でる人々家族連れで大賑わい、ピクニック気分になれる日曜日の昼下がりでした。花を見ながら宴会をする民族は、地球上で日本人以外にいますか？



世の中の成長発展とは無縁の世界に医師は生きています。日陰の黒子のような存在でしょうか。人生の2/3を医師として生きて来ましたが、老境に入ると花鳥風月を愛でるようになりました。心の自然史なのでしょう。三月末に名古屋港水族館を久しぶりに訪れました。水の中を踊るように生きているクラゲの姿が印象的でした。水の中でのりくったりと生き続けるのは並大抵ではないと思います。地球温暖化の影響で、海中の生物にも生きづらさが及んでいる可能性があります。資源、食糧不足、物価高、非正規雇用の拡大と雇用不安、家庭内での虐待、学校や職場でのいじめやハラスメント、人間界も生きづらくなっています。



PS: この4年間でコロナ関連死も含めてお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

フォークソング世代として忘れられない「昴」「いい日旅立ち」で有名な谷村新司さん、七三歳で亡くなりました。大好きな歌手でした。八十代のご高齢になられて交通の激しい街中のクリニックへの通院が困難になり近医に転院される方がおられます。内科医でも処方出来る抗うつ薬の時代になっていますので、かかりつけ医にバトンタッチすることになります。当たり前のことですが医師にも寿命があり、長年診て貰った医師が廃業したり、認知症になったり、亡くなったりすることも避けられません。治療関係の終焉は一抹の寂寥感が伴います。これも臨床場面での宿命でしょうか。

2024年4月15日 かゆかわクリニック院長 粥川 裕平